vinetur

イタリアのワイン輸出、8月は5.1%増 2026年の減少幅が縮小

米国向け出荷が21.1%増加し、年初来の輸出減少率は7月までの5.3%から3%に縮小

2026年11月17日（火）



イタリアのワイン輸出は8月も改善し、2026年の減少幅が縮小した。ただし、年初来の輸出額は依然として2025年の水準を下回っている。

11月16日（月）に公表されたイタリア国家統計局（Istat）の最新輸出データによると、2026年1～8月のイタリアのワイン輸出額は48億5,000万ユーロだった。前年同期比では3%減となったが、年初7カ月の5.3%減、上半期の6.2%減から明確に改善した。

改善を主にけん引したのは8月だった。同月の輸出額は5億680万ユーロに達し、2025年8月比で5.1%増加した。この数値は輸出額のみを対象としており、数量データはまだ公表されていない。

最も明るい兆しを示したのは、イタリアワインの最大の海外市場である米国だった。8月の米国向け出荷額は前年同月比21.1%増の1億1,210万ユーロとなり、2025年8月の9,250万ユーロから増加した。この伸びにより、米国市場の累計減少率も縮小した。2026年1～8月の米国向け輸出額は11億ユーロで、2025年同期比8.3%減だった。7月までの減少率は11.2%だった。

米国市場の回復は飲料関連企業にとって特に重要だ。イタリアは世界有数のワイン供給国であり、輸出動向の変化は、国際需要や価格の底堅さ、そして最も重要な飲料市場の一つにおける回復のペースを測る有用な手がかりとなる。

欧州は市場によって明暗が分かれたものの、全般に年初より安定していた。イタリア最大の欧州市場であるドイツ向け輸出額は、2026年1～8月に7億140万ユーロとなり、前年同期比5.5%減だった。英国も同じく5.5%減で、出荷額は4億7,910万ユーロ。7月までの6.3%減から改善した。

フランス向け輸出は3%減の2億330万ユーロ、オランダ向けは2.3%減の1億5,920万ユーロだった。スウェーデン向けはほぼ横ばいで、小幅な増加により輸出額は1億2,650万ユーロとなった。

欧州と米国以外の市場では、結果にばらつきが見られた。カナダ向け輸出は6.1%減の2億6,580万ユーロ。日本向けは前年水準に近く、1.2%減の1億2,080万ユーロだった。

中国は特に大きな伸びを示した市場の一つだった。1～8月のイタリアワイン輸出は21.7%増加し、5,100万ユーロを上回った。増加の大部分は、イタリア産スパークリングワインの販売拡大によるものだった。ロシアも大幅に伸び、輸出額は24.2%増の1億4,060万ユーロとなった。

8月の改善は、年初の低調な滑り出しの後、イタリアの生産者が一部で持ち直していることを示唆する。輸出全体の減少幅が縮小し、米国向けが単月で大きく伸びたことから、2026年終盤に向けて勢いが改善していることがうかがえる。ただし、8月までの総輸出額はなお2025年の水準を下回っている。

この動向は飲料業界全体で注視される。特に、主要市場の消費者需要を測る指標としてイタリアの輸出データを活用するワイン生産者や輸入業者、販売業者にとって重要だ。米国で回復が続き、ドイツと英国からの受注も堅調になれば、年末商戦期における高級ワインやスパークリングワイン、関連飲料カテゴリーの在庫、価格、販売をめぐる見通しに影響する可能性がある。

現時点でデータが示すのは、依然として圧力を受けながらも、徐々に回復している市場だ。2025年との差は縮まり、8月は増加に転じた。カナダや西欧の一部市場では低迷が続いた一方、主要な仕向け先のいくつかでは、年初より強い数値が示された。